

内科専門研修プログラム

サブスペシャリティ重点コース / 糖尿病・内分泌・代謝内科コース

(1) コースの全体像

大阪大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科は、下村伊一郎教授以下、約70名の教室員が所属し、さらに同窓会会員は600名に達し、日本最大規模の糖尿病・内分泌・代謝内科学教室です。「住き主治医と医学貢献」の方針のもと、日本そして世界の医療・医学への貢献を常に目指し、多くの実績を積み上げています。

当科は全身の臓器・血管を相手にしています。すなわち、当科の領域は、全身を相手にする統合内科学としての診療学問領域という性格があります。そのため、さまざまな診療科と連携して診療に当たり、糖尿病・内分泌・代謝疾患のスペシャリストであると同時に、内科のジェネラリストとしての能力を高める研修教育も実践しています。また当科は、内科の中でも女性医師が多数在籍している診療科であり、結婚・出産・育児への対応、キャリアアップ、また教官や関連施設部長、留学と多くの女性医師が高いレベルで活躍することを積極的にサポートしています。当科のサブスペシャリティ重点コースでは、他の内科系診療科と同様、研修医の希望に応じて、できるだけ早い時期からサブスペシャリティ領域の専門研修を行い、その後のキャリア形成につなげます。さらに当科のサブスペシャリティ重点コースでは、3年目より大学院に進学し、研究を早くから開始することもできます。当科ではこれまでに、下記のような内科学・糖尿病学・内分泌学の教科書に載る世界一流の研究実績を有しています。研究を早くから開始したい専攻医には、大学院に入学し内科専門研修と並行して、こうした一流の研究にも参画してもらうようにいたします。



内分泌・代謝内科学の特色

世界の内科教科書を 書き換える実績

- 内臓脂肪型肥満・メタボリックシンドローム概念
- アディポサイトカイン概念、アディポネクチンの発見と臨床応用、肥満脂肪組織の病態学
- 劇症1型糖尿病の発見と診断治療学
- 膵臓インスリン分泌学と病態学
- 転写因子MafA：最強のインスリン転写因子
- TSH不適切分泌症候群、脂肪性ステロイド糖尿病など新たな内分泌疾患群の提唱
- 多数の全国規模の予防/治療医学に関する臨床研究

scienceWATCH[®] TRACKING TRENDS & PERFORMANCE IN BASIC RESEARCH Obesity : Top 20 Institutions

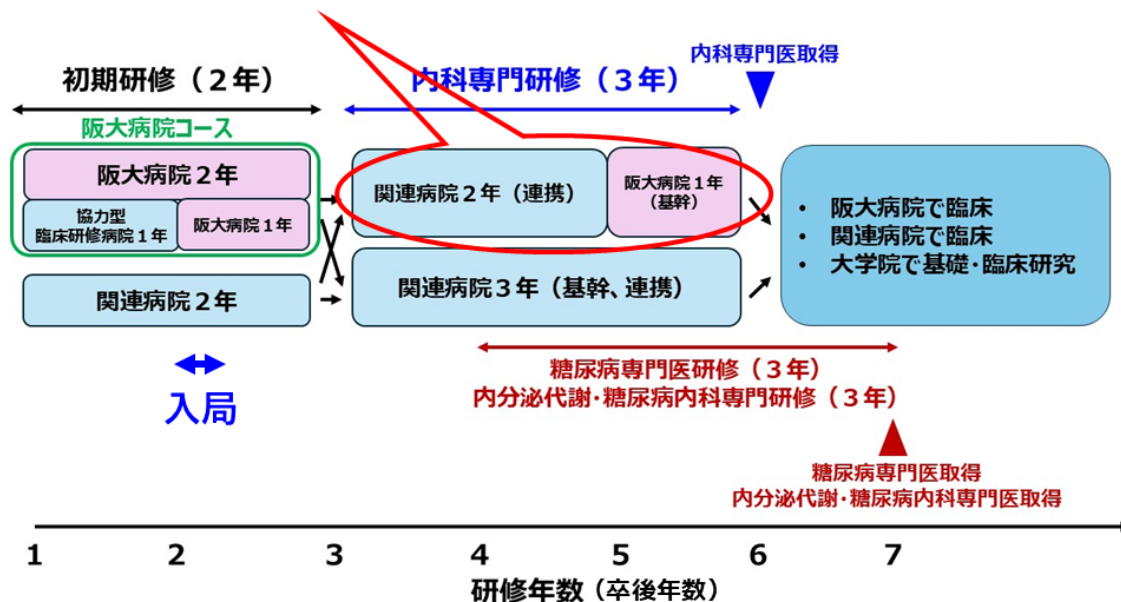
Citations Per Paper (≥ 118 papers)			
Rank	Institutions	Citations	Citations Per Paper
1	OSAKA UNIV	23,465	368
2	INT DIABET INST	7,935	126
3	BETH ISRAEL DEACONESS MED CTR	19,811	332
4	CTR DIS CONTROL & PREVENT	37,176	685
5	ALBERT EINSTEIN COLL MED	5,921	132
6	NIDDK	17,996	410
7	BRIGHAM & WOMENS HOSP	25,264	587
8	HARVARD UNIV	90,448	2,161
9	AMGEN	5,131	124
10	INST PASTEUR	7,979	193
11	NHLBI	11,287	281
12	GEORGE WASHINGTON UNIV	5,369	135
13	NATL PUBL HLTH INST	12,378	313
14	UNIV TOKYO	13,582	347
15	NIA	6,821	175
16	UNIV KUOPIO	11,413	295
17	UNIV TEXAS SAN ANTONIO	10,896	283
18	UNIV EDINBURGH	8,813	230
19	UNIV TAMPERE	4,596	124
20	YESHIVA UNIV	15,192	410

肥満研究世界1位

（２） コースの概要

コースの概略を下に示します。

（阪大内科専門研修プログラムの一例）
関連病院にて研修後、3年目に阪大病院
で研修かつ大学院入学が可能



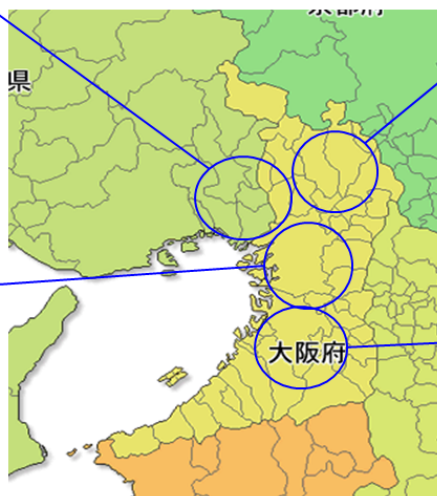
下記は、当科のサブスペシャリティ専門医を取得する際にローテートする、あるいは専門医取得後に専門医として活躍していただける関連施設です。大阪府下および阪神地区に多数の関連施設を有しています。

（３） コースの実績

多数の関連施設

市立伊丹病院
 川西市立総合医療センター
 ベリタス病院
 関西ろうさい病院
 県立西宮病院
 西宮市立中央病院
 川崎病院
 明和病院

大阪国際がんセンター
 大阪急性期・総合医療センター
 大手前病院
 大阪けいさつ病院
 国立病院機構大阪医療センター
 JCHO大阪病院
 住友病院
 日本生命病院
 大阪回生病院
 大阪みなと中央病院
 済生会泉尾病院



市立池田病院
 市立豊中病院
 市立吹田市民病院
 箕面市立病院
 済生会千里病院
 北大阪ほうせんか病院
 ガラシア病院

大阪ろうさい病院
 堺市立総合医療センター
 りんくう総合医療センター
 大阪南医療センター
 市立東大阪医療センター
 八尾市立病院
 ベルランド総合病院
 大阪母子医療センター
 大阪はびきの医療センター
 守口敬仁会病院

大阪大学医学部附属病院および関連施設（多くが日本糖尿病学会ないし日本内分泌学会の認定教育施設）において、多数の糖尿病患者、代謝疾患患者、内分泌疾患患者を診療経験することができます。阪大病院では、当科の年間の外来延患者数は 36000 人以上、入院延患者数は約 7,000 人におよびます。また年間入院糖尿病・代謝疾患患者数は 1500 人以上、内分泌疾患患者数も 300 人以上におよびます。内分泌代謝臨床・研究に関する学会発表は年間 100 件以上におよび、英文学術論文数も 30 本以上におよびます。毎年 5 名前後の学位取得者、多数の専門医取得者がいます。

当科で扱う疾患



内分泌・代謝疾患を網羅

糖尿病領域では、膵腎同時移植前後の診療、インスリンポンプ療法、皮下連続式グルコース測定（CGM：Continuous Glucose Monitoring）の導入、肥満症領域では、新しい肥満症治療薬（GLP-1 関連薬）の導入、減量・代謝改善手術の適応評価と治療介入、内分泌領域ではバセドウ病・甲状腺癌・内分泌腫瘍に対する放射線内照射療法、エコーガイド下穿刺吸引細胞診等の特殊検査・治療も実施しています。

（４） コースの指導状況

大阪大学医学部附属病院糖尿病・内分泌・代謝内科においては、43名の糖尿病専門医、14名の糖尿病研修指導医、19名の内分泌代謝科専門医、9名の内分泌代謝科研修指導医、18名の内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医が所属し、研修医の指導にあたっています。各関連施設においては1名以上のサブスペシャリティの研修指導医が常駐し、2～5名のスタッフで研修指導を行っています。また 関連施設共同で、OEMCC（大阪内分泌代謝クリニカルカンファレンス）を年1回開催し、研修指導を強化しています。

（５） 専門医の取得等

当科で取得可能なサブスペシャリティ専門医は、学会認定の糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医の他、肥満症専門医、動脈硬化専門医、甲状腺専門医の他、日本専門医機構認定の内分泌代謝・糖尿病内科専門医です。内科専門研修と平行してサブスペシャリティ領域の研修を行うことで、内科専門医を取得後は、こうしたサブスペシャリティ専門医を最短で取得することを目指して研修を継続します。また、研究志向のある研修医は、大阪大学大学院医学系研究科の大学院生または研究生として、臨床研究または基礎医学研究を行い、医学博士の取得を目指します。あるいは、関連施設で臨床医として活躍しつつ、大学と連携をとりながら臨床研究を行い、論文博士を取得することも可能です（社会人大学院生）。専門医や学位取得後は、各人の適正と希望に応じて、研究・臨床・教育の各現場で、後輩の指導にあたるとともに、第一線のプロフェッショナルとしてのキャリアを積んでいくことになります。

問い合わせ先

■大阪大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・代謝内科

担当者 小澤 純二 ✉ kensyu@endmet.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <http://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/endmet/www/home/course.html>